



旬の味覚を満喫

メロン・スイカフェスティバル開催



スイカ早食いに挑戦

つがる地球村で8月10日、「つがる市メロン・スイカフェスティバル」が開催され、県内外から訪れた観光客がつがるの旬の味覚を満喫しました。

このイベントは、つがる市が全国有数のメロン、スイカの産地であることをPRしようと、つがるブランド推進会議が3年前から開催。市内の各出荷団体や商工会などの職員が実行委員会となって運営にあたっています。当日はあいにくの雨でしたが、即売会にはたくさんの人が訪れ、甘さたっぷりのメロンやスイカを買い求めていました。会場となったお祭り広場では、メロン・スイカの早食い大会や流しソーメンなど多彩な催しも行われ、大いに盛り上がりました。

また、北海道白老牛のバーベキュー、よさこい知床群会の演舞、大抽選会なども行われ、訪れた家族連れらは、楽しい1日を過ごしていました。



メロン皮むき大会



家族揃ってゲームに参加



甘くておいしいスイカやメロンを味わう



雨にも負けないパフォーマンスを披露



大好評の流しソーメン



北海道白老牛バーベキュー



スイカを買い求める来場者

三新田まつりで商店街にぎわう

三新田まつり実行委員会(長谷川靖久会長)による「夜店まつり」が7月22、23日に開催され、訪れた多くの市民らでにぎわいました。

木造地区の有楽町、千代町商店街を歩行者天国として開放した会場では、至る所でマジックショーやバルーンパフォーマンス、ジャズ演奏、地元園児たちによる踊りなどのイベントが行われ、多くの観衆を楽しませていました。

7月20日には、下木造地区のかっぱ広場周辺で伝統の「とうろう流し」が行われ、参加者は古田川をゆっくりと流れる家内安全や学業向上などの願いを込めた灯籠を静かに見守りました。



歩行者天国でパフォーマンス披露



花嵐桜組の大旗振り披露

多彩な催しを楽しむ フラット夏まつり

むらおこし拠点館活性化協議会(工藤嘉津彦会長)による「フラット夏まつり」が7月27日に行われ、多くの来場者が祭りを楽しみました。

この日は弘前市のよさこいチーム「花嵐桜組」が演舞や大旗振りを披露。ネブタや大間町のマグロなどを表現した華やかな舞いが観衆を魅了しました。

また、会場では地元の歌謡クラブ「楽歌声の会」による歌謡ショーや商品を多数取り揃えたビンゴゲーム、生バンド演奏、盆踊りなどさまざまなイベントも開催。多くの家族連れらが1日中祭りを満喫しました。

かしわ盆踊りで交流の輪

8月16日、イオンモールつがる柏駐車場で「かしわ盆踊り」が開催され、約1000人の市民らが交流と親睦を深めました。

初めに成田昭司実行委員長が「津軽の短い夏を一杯踊って楽しんでください」とあいさつ。やぐらの上では市内外から参加した24団体が趣向を凝らした衣装で組み踊りを披露。やぐらの周りでは、大人も子どもも一緒に二重三重の輪になり、柏音頭などに合わせて心地よい汗を流していました。

また、かしわネブタ会によるネブタ運行や、フィナーレでは大輪の花火も打ち上げられるなど、来場者はにぎやかな夏のひとときを過ごしていました。



やぐらの周りで踊りを楽しむ参加者



田小屋野貝塚の解説を聞く参加者

遺跡散策で縄文に思いはせ

NPO法人つがる縄文の会(川嶋大史会長)が主催する「田小屋野貝塚ウオーク」と「JOMON亀ヶ岡遺跡まつり2014」が8月16日、しゃこちゃん広場を主会場に開催されました。

田小屋野貝塚ウオークでは市内外から参加した約120人が、市教育委員会の佐野忠史学芸員による遺跡発掘状況の解説に耳を傾けながら、同貝塚と亀ヶ岡遺跡周辺を散策しました。

亀ヶ岡遺跡まつりでは、木造高校吹奏楽部によるオープニング演奏に続いて、川嶋会長が「縄文遺跡群の世界文化遺産登録を目指して気運を盛り上げましょう」とあいさつ。地元園児らの太鼓披露や今年の市ネブタ大賞に輝いたネブタ「縄文荒吐族」が会場周辺を運行し、祭りを盛り上げました。

市民が姉妹都市交流で相互理解を図る

つがる市の姉妹都市（ふるさと交流都市）

米国メイン州バス市：明治22年に車力沖で座礁したバス市の貨物船「チェスボロー号」の乗組員を旧車力村民が救助。この史実を現代に受け継ごうと交流が続けられています。平成18年7月6日姉妹都市提携

北海道白老町：大正時代の第3代の白老村長・平田源三郎氏が旧森田村出身だったことがきっかけとなり、平成17年7月31日に姉妹都市提携

千葉県柏市：旧柏村と国内で唯一の同名自治体だったことがきっかけとなり、交流開始。平成17年7月23日に「ふるさと交流都市」を提携

バス市訪問団と交流を深める 訪問団がつがる市にホームステイ

8月1日から10日までの10日間、姉妹都市である米国バス市の訪問団12人がつがる市に滞在し、ホームステイや交流イベントを通して友好を深めました。6日、市役所を訪れた一行は福島市長と対談。訪問団代表のジョン・ポーラス市議会議員は「たくさんの貴重な出会いがあり、両市お互いの理解を深めて絆をより強くすることができた。これからも交流を続けたい」とあいさつ。高校生のホリー・ステグナさんは「日本を訪れることは小さい頃からの大きな夢だった。夢を叶えてくれたこのプログラムに感謝しています」と喜んでいました。滞在中は、柔道や書道、茶道など日本の文化を体験。ホストファミリーや市民と交流を深めながら、日本の夏を満喫しました。



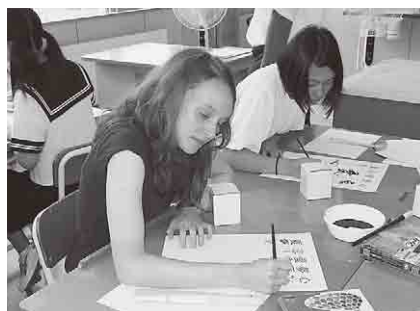
福島市長と記念撮影



木造高校で柔道部入門



茶道のマナーを学ぶ



木造中学校で模擬授業

白老町の歴史と文化を学ぶ

市内の小学5年生20人が、8月7日から9日までの日程で北海道白老町を訪問し、姉妹都市について見聞を広めました。児童たちは仙台藩元陣屋跡で白老町の歴史を学習。アイヌ民族博物館では、アイヌの文化や踊りを体験しました。白老町児童との交流では、両市町の特産品を使った料理の開発やゲームなどにより、お互いの友好を深めました。



つがる市・白老町の児童で記念撮影

柏市でサッカードリーム事業

柏市で7月18日から20日、サッカードリーム事業が開催され、本市の5、6年生26人が参加しました。この事業は柏市を拠点とするプロサッカークラブ「柏レイソル」の協力により行われ、参加した児童はプロクラブのコーチが指導するサッカースクールで基本動作などを学びました。また、日立柏スタジアムで「柏レイソル」の試合も観戦しました。



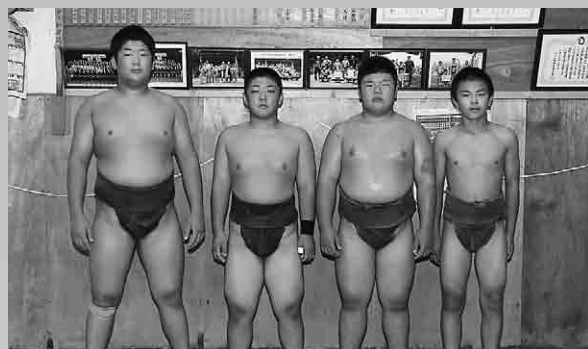
サッカーの指導を受ける参加者

大舞台での抱負を語る

相撲

木造中相撲部

県中学校体育大会準優勝で8月6日から山形県で開催される東北大会への出場を決めました。主将で3年の石岡弥輝也君(写真左端)は「全勝して優勝目指します」と話していました。石岡君は8月22日から開催される全国大会(徳島県)へも出場します。



剣道

木造中女子剣道部

県中学校体育大会準優勝で8月4日から開催の東北大会(宮城県)へ出場。3年の江良桃香さん(写真前列中央)は個人戦で優勝し、8月17日から開催される全国大会(高知県)へも出場します。江良さんは「支えてくれた皆さんに感謝し、予選突破を目指します」と話していました。



卓球

中川舞香さん (木造中3年)

東北中学校卓球大会女子個人の部で3位の成績を収め、8月22日から徳島県で開催される全国大会への出場を決めました。中川さんは「気持ちで負けないように頑張ります」と話していました。



バレーボール

稲垣少年クラブ 稲垣中女子バレーボール部

稲垣少年クラブは全日本バレーボール小学生県大会で優勝し、8月13日から開催の全国大会(東京都)への出場を決めました。主将の佐藤壮太君(稲垣小6年)は「みんなで声を掛けあって優勝目指します」と話していました。

稲垣中女子バレー部は県中学校体育大会準優勝で東北大会(8月8日、宮城県)へ出場。主将の加藤佳恋さん(3年)は「全国大会まで勝ち進み、ベスト8を目指します」と抱負を語りました。



稲垣中野球部

県中学校体育大会準優勝で8月6日から福島県で開催される東北大会へ出場。主将で3年の対馬竜之介君は「自慢の守備を中心に打撃の流れをしっかりとつなぎ、一戦必勝で悔いを残さない試合にします。」と話していました。